



子どもボランティアコーディネート支援校の取組

ふくい市民活動基金で応援している小中学校の活動を紹介します！



清水西小学校



車いす体験

4年生が、「あたたかくて住みやすい町のくふう」のテーマのもと、福祉について学習しました。学校では車いすや高齢者体験をし、ボランティアセンターではボランティアについての話を聞いたりして学びました。これらの学習を通して、さらにあたたかくて住みやすい町になるよう、「困っている人を見かけたら進んで声をかける勇気を持つこと」、「相手の立場に立って自分にできることはないかを考える」など、支え合う気持ちの大切さに気付くことができました。

清水東小学校



ニュースポーツ

4年生が、清水特別支援学校とペアになり、みんなでニュースポーツに挑戦したり、東校の児童が作ったおもちゃで遊んだりして交流しました。手作りのおもちゃや景品を気に入ってくれたので、東校の児童も大変嬉しそうでした。

交流後の感想には、「楽しんでもらえて嬉しい」「たくさん考えた交流だった」などがあり、福祉ボランティアへの気付きや学びの多い有意義な交流となりました。

清水南小学校



巨大貼り絵

4年生が、「南校 みんなで つながろう やさしさ発見！」をテーマに、福祉について学びました。子どもたちは、清水特別支援学校との交流を通して、ハンディキャップを持つ子どもたちと触れ合いました。

交流では、オンラインで話し合いながら巨大貼り絵を製作したり、特別支援学校に出かけ自作のゲームで楽しんだりしました。また、障がい者スポーツ出前授業で車いすを体験をして、自分たちに何ができるかについて考える良い学びとなりました。

清水北小学校



ボッチャ体験

4年生が、「清水のやさしさの輪を広げよう」をテーマに、清掃活動をしたり、福祉について学んだりしました。学習していく中で、障がいを抱えていても夢を諦めずにスポーツに取り組んでいる人がいると知り、パラリンピックの種目でもあるボッチャを体験することにしました。初めての体験でしたが、ルールを理解し楽しむことができました。スポーツに限らず、共に心地よく暮らしていくことができないかを、体験を通して考えることができました。

清水中学校



地区の清掃

生徒会執行部と環境委員会のコラボレーション企画として、清水地区内のクリーンアップ作戦を行いました。生徒総会や全校放送、ポスターなどで参加を呼びかけた結果、当日は全校の過半数が清掃に参加し、ゴミ収集場所へ持ち込みました。

生徒たちは自分たちが住む町の現状を知るとともに、美しく保とうとする気持ちが高まりました。

杉坂中学校



花いっぱい運動

自分たちで種から苗を育て、プランターに移植し地域の公民館に設置する「花いっぱい運動」に取り組みました。また、たくさんの苗ができたため、学校の敷地内にも自分たちの花壇を作ろうということにもなりました。朝夕の水やりや定期的な除草などを通して、責任感が強くなり、友達と協力して作業に取り組む姿もいろいろな場面で見られるようになりました。自分たちで企画し取り組むことで達成感を味わうことができました。

ボランティアアカデミー講座をふりかえって

講義と体験を通して、ボランティアを始めるきっかけとなる様々な活動を学ぶ、ボランティアアカデミー。今年度のコースの楽しい学びや体験を紹介します。

ホタル舞う まちづくり コース



「NPO 法人日本ホタル再生ねっと」の草桶氏を講師に招き、ホタルと人が共存するまちづくりや人づくり、環境保全の大切さについて学びました。また、まち未来創造課の職員からは、まちづくりに関する市の取組や補助金などの説明があり、安居公民館の主事と安居中学校の生徒からは、安居地区での環境保全活動への取組などについて教わりました。

体験では、「ほたる社西の会」の山下氏の指導の下、社西小学校で毎年行われているビオトープの清掃活動に参加し、枯草の撤去作業などに汗を流しました。

参加者からは、「自然と共生するまちづくりの大切さについて考えることができた」「地域のまちづくりについてたくさんのお話が聞けてよかった」といった感想がありました。



子ども食堂 コース

(一般編・学生編)



子どもや地域の人々が食を通じて楽しく集う場「子ども食堂」。福井県では現在、30以上の子ども食堂が立ち上げられ、コロナ禍でもつながりを絶やさぬよう工夫を凝らした活動を続けています。

当センターへも「子ども食堂」のボランティアに参加したいとの問い合わせが多く、昨年に引き続き体験講座を開催しました。県内で結成された「子ども食堂ネットワークふくい」の方々にご協力いただき、現在の子どもたちを取り巻く現状や活動の様子を伺いました。

「だれでも食堂夕焼けこやけ」「ひまわりキッチン」「山田さんちの子ども食堂」では、子どもたちとの交流や食品配布の補助などのボランティアを体験し、地域のつながりの大切さやまちづくり活動への意欲を感じていただくことができました。



親子エコ活動 コース



NPO 法人エコプランふくと、県内の大学生で結成された「省エネ活動推進グループ」の方々にご協力いただき、親子が、ゲームや工作を通して、環境問題や家庭や地域で身近なことからできる「エコボランティア」について学びました。

体験では三里浜の海岸清掃を行い、漂着した薬品ビンなど35キロのプラスチックゴミを回収し、その内容を調査しました。

参加者は、「ゴミを目の当たりにして、ゴミを減らさないとという気持ちになった」「化粧品の中のマイクロプラスチックについて全く意識したことがなかった」と考えを新たにしました。



おさごえ民家園ボランティアコース



北陸新幹線福井開業を控え、観光おもてなしのボランティアのきっかけづくりとして、福井市指定文化財の「おさごえ民家園」で、江戸時代の古民家について学ぶ講座を開催しました。最初に、文化財保護課の職員から、建物の歴史や特色について講義を受け、養浩館庭園を担当している庭師の森口朝行氏の指導で、雪つり、門松づくりなどの冬支度を行いました。

また、「ボランティアグループおさごえ」や、養浩館庭園のボランティアグループ「御泉水倶楽部」で活動されている方から活動内容についてお話を伺いました。参加者からはおさごえ民家園に愛着を感じた「ボランティアグループで活動したい」といった感想がありました。



集まれ! 写真ボランティアコース



高校生が、まちなかを歩きながら、スマートフォンやカメラで養浩館庭園や福井駅周辺の風景を撮影し、Instagram「福いいネ! 発信隊」のアカウントを使って福井の魅力を発信しました。

当日は雪となり、駅前の恐竜オブジェはまるで氷河期にタイムスリップしたかのよう…。養浩館庭園には水仙が飾られ、より趣を感じる、福井ならではの景色が広がっていました。

(株)カンパネラバイヤー兼フォトグラファーの柿木孝介氏からは、撮影のポイントや、県内外・海外の方にも見てもらえるハッシュタグのつけ方などを学び、広報ボランティアやこれからのまちづくりへの関心を広げることができました。



地域の居場所づくりコース



講師に迎えたコミュニティソーシャルワーカーの下島礼子氏に、地域の居場所をゼロから立ち上げた経験から、コミュニケーションについてのお話を聞き、地域包括ケア推進課の職員からは、福井市の高齢者の現状とその取組について学びました。

また、地域住民が集う居場所として「よろず茶屋」を実際に運営している3団体の代表者から、地域に寄り添った取組が紹介され、世代を超えたふれあいの中で互いに支え合う居場所づくりの必要性を学びました。

体験では、よろず茶屋に出向き、運営スタッフをサポートし、訪れた方とスマホや健康、川柳の教室や囲碁・将棋等で交流を楽しみました。参加者からは、「よろず茶屋に通われている方が生き生きされていて楽しそう」「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう一役買えたらよい」などの感想が聞かれました。



ボランティアとの関わり方を学ぶ 寄りそいつなぐココロ講座

人との関係づくりが苦手な傾向にある人や障がいの有無等に関わらず、誰ひとり取り残すことなく包み込む「インクルーシブ」は、世界が抱える課題を解決しようとするSDGsの実現のために重要な理念として注目されています。このインクルーシブの視点から、福祉サービス事業所や企業、市民活動団体等を対象に、ボランティアの送り出し、受入れの際に必要な人との関わり方や信頼関係の築き方等を学ぶ講座を、2月9日、総合ボランティアセンターで開催しました。

講師を務めた京都光華女子大学准教授の南多恵子氏が、活動の場を活動者にとっての「居場所」と捉える考え方や、ハンディキャップの有無に関わらず、送り出し・受入れができるよう工夫や配慮が必要なことを説明しました。

オンラインで参加した講師、社会福祉法人ストローム福祉会山王子どもセンターの田村幸恵氏が、自身の団体で受入れを行った事例を紹介した後、受講者のグループワークでは、自分たちにできる送り出し・受入れの形、関わり方を検討しました。ワーク後は、各グループで発表者を割り振り、受講者同士で発表や質問をしました。

受講者からは、「生きづらさを抱えた方について学術的には理解していたが、実践に落とし込んだ考え方を学ぶことができ有意義だった」などの感想があり、改めてインクルーシブの視点やその必要性を学ぶ機会となりました。



協働の可能性を一緒に考える

企業×NPOのSDGsプログラム

持続可能な社会を目指してSDGsに取り組む企業と、日頃から社会課題の解決のために活動を続けるNPOとの協働を進めようと、連携のアイデアやコツを学ぶオンライン講座を開催しました。

前半の講義では、講師の社会福祉法人大阪ボランティア協会の永井美佳氏に、企業とNPOが連携するメリットや全国の協働事例を基に、取り組む際のヒントについてお話をいただきました。

また、福井の取組事例として、株式会社ソリッドラボの黒田悠生氏に、様々な組織と繋がり、社会課題に取り組みながら事業を上げておられる様子を伺いました。

後半は、受講者が少人数のグループに分かれて、企業やNPOでの取組を互いに紹介しました。短い時間でしたが、グループトークの中では、交流を深めたりNPOのイベントへ企業の協賛を得られるなど、早くも連携のきっかけをつかんでいただけましたようです。

総合ボランティアセンターでは、今後も様々な組織がつながり、より良い社会を目指していけるようお手伝いしていきますので、ご相談等ありましたら、どうぞお気軽にお立ち寄りください。



(福)大阪ボランティア協会
永井 美佳 氏



(株)ソリッドラボ
黒田 悠生 氏



発見！ウォーキングの魅力

活動体験で知る団体の魅力！！

市民活動に参加し、ウォーキングを楽しみながら団体メンバーと活動することで団体への理解を深め、市民活動団体の活性化につなげることを目的にウォーキング講座を開催しました。

2月10日の講義では、NPO法人福井県ウォーキング協会の吉田清会長が協会の活動内容や疲れない歩き方を説明し、「ウォーキングは手軽に取り組み、健康づくりに効果的で、仲間と一緒に歩けばつながりが生まれる」と語りました。福井工業大学の坂崎貴彦教授は「歩幅を広げて歩くことで足腰の筋肉強化になる」とウォーキングの身体的効果を解説しました。福井駅西口周辺を実際に歩いて、習った歩き方を確認し、交差点での安全確保、集団の長さ調整などの役割を体験しました。

1月7日の協会主催の初詣ウォークは天候に恵まれ、JR福井駅西口をスタートし、柴田神社、火産霊神社、杉杜白髭神社、和田八幡宮を巡り、JR福井駅に戻る7kmのコースを2時間かけて歩きました。

受講者からは、「リーダーなどスタッフの連携の大切さがわかった」「もっと手伝いができる、なお充実感が持てた」「意識すると筋肉の使い方が変わることがよくわかった」といった感想があり、入会を希望する方もいました。



市民活動のカタチって？



基礎からわかる団体の設立と運営講座

仲間と団体を作って市民活動を始めようとするとき、どのようなことを話し合ったらいいのかわかってもらおうと、2月18日、PDCAサポートの阿部俊二氏を講師に招いて、団体の設立と運営について学ぶ講座を開催しました。

阿部氏はこれまで法人、一般社団法人、任意団体の立ち上げと運営に携わっており、その経験を踏まえて、団体設立にはまずどんな活動をしたらいいのかわ話し合い、それぞれの団体の特徴を知って比較することが重要で、「社会に信用があるからという理由だけでNPO法人を選ばないほうがいい」と伝えました。また、「課題解決は、できるところから、できる範囲で、できるまで」やるのが大切で、「誰のために、いくらでを加えた6W2Hを忘れずに」と強調しました。

受講者からは「今回の講座を生かし、自身が求める団体を設立できるよう努めていきたい」「NPO法人に対する基本的な心構えの内容は大変良かった」との声が聞かれました。



令和4年度 県民社会貢献活動功労者知事表彰

県内の社会貢献活動のうち、特に優れた活動や先駆的な活動をした個人や団体に対する県の令和4年度表彰式が2月4日、福井県国際交流会館であり、当センターの登録団体からは「福井市介護者家族の会かたらい会」と、「公益財団法人がんの子どもを守る会福井支部」が受賞されました。

おめでとうございます！



左：(公財)がんの子どもを守る会 荒木真壽美氏 右：福井市介護者家族の会かたらい会 安永松子氏

公益財団法人

知事奨励賞 がんの子どもを守る会 福井支部

子をがんで亡くした親などが、がんにかかった子どもや家族に寄り添い、支援しようと設立し、小児がんに関する知識の普及、患児・家族に対する相談・交流、支援などを行っています。

医療関係者、行政、大学生等の協力を得て行う活動は、患児・家族のより良い療養生活につながっており、不安や悩みを抱える患児には、治療中の学業、治療後の学校復帰、進学、就職などについてソーシャルワーカーを交えた相談、交流を行っています。また、小児がん経験者の交流会は、経験者自身が中心となって行う支援が他に先駆けた取組とされ、心の問題や後遺症などの悩みを同じ立場で語り合い、支え合う場となっています。



功労者知事表彰 福井市介護者家族の会かたらい会

介護に関する正しい知識の普及と理解の推進、寝たきりや認知症、障がい者など要介護者の家族に対する相談と交流などの活動を40年にわたって行い、要介護者とその家族を支援しています。「笑顔の介護」「頑張らない介護」につながるよう、介護者同士が悩みや不安を語り、共感することで励まし合う例会や健康体操、介護方法、介護用具等について幅広く学習する講習会を開催し、介護者からの電話相談対応は、同じ悩みや不安を抱える介護者同士の寄り添い・支え合いになるなど、活動は介護を担う家族の暮らしや人生が充実したものになるよう要介護者を含めた家族全体への支援になっています。



ボランティア募集や講座情報を発信中！総ボラの SNS をご活用ください！



facebook



Twitter

4月から、Instagramでの情報発信も開始します！
フォロー&いいね👍 お願いします！



福井市総合ボランティアセンター

〒910-0006 福井市中央1丁目21ハビリン4階
福井市市民協働・ボランティア推進課

TEL:0776-20-5107 FAX:0776-20-5168
E-mail:volunteer@city.fukui.lg.jp

【開所時間】火曜～金曜日 9時から21時
土曜日・日曜日 9時から17時

【休所日】月曜日、祝日、年末年始
(祝日が土日の場合は開館)

ボランティアネットをご活用ください！



- あなたにあった活動が見つかります！
- ボランティアの情報がわかります！
- 講座や交流会に参加できます！
- 交流ひろばや研修室がつかえます！
- チラシやポスターが印刷できます！